

宮若地区(第3期) 都市再生整備計画事業 事後評価の概要

地区の概要

対象地区は以下のような地区となっています。

新庁舎の建替え事業が進められ、中心拠点施設間の相互連携のための広場整備による、新たな賑わい空間づくり、自主防災活動の拠点を形成するとともに、道路整備による中心部の回遊性やアクセス性の向上を図ってきました。

今後、各種整備を進め、都市機能がコンパクトに集約された多機能拠点づくりを推進することとしています。

事業の概要

本事業では以下の取組を行いました。

■宮田停車場・本城線道路改良



■新庁舎前連携交流広場整備



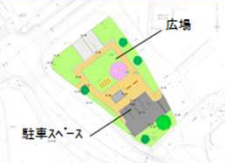
■宮田バスセンター整備(イメージ図)



■片鉾・天王寺線道路改良



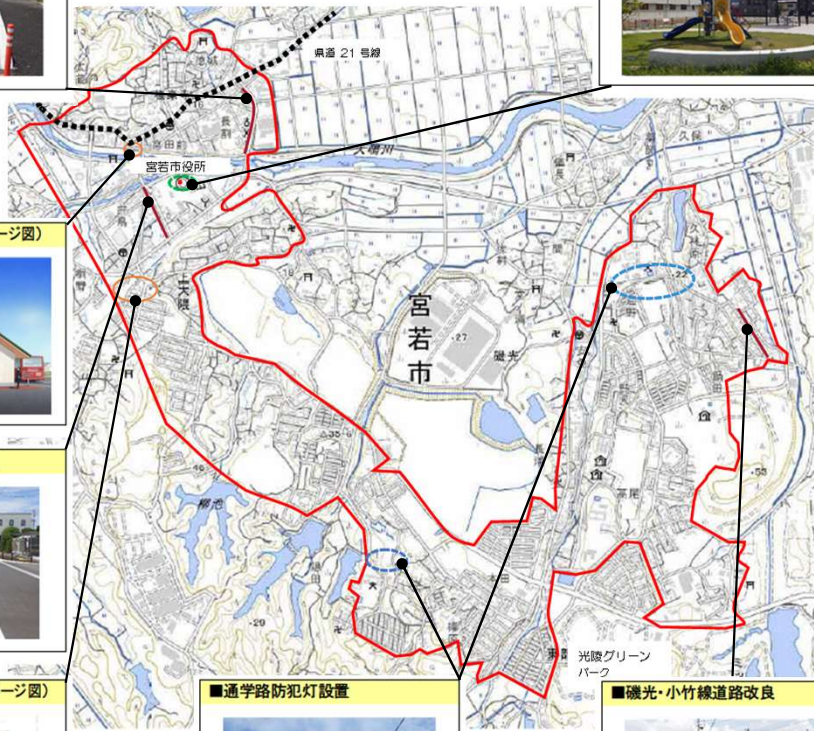
■筑前宮田駅跡広場整備(イメージ図)



■通学路防犯灯設置



■磯光・小竹線道路改良



- 地区名：宮若地区（第3期）
- 地区面積：282ha
- 計画期間：令和元年～令和5年度
- 交付期間：令和元年～令和5年度

まちづくりの課題

事業実施前には以下のような課題がありました。

- ・定住人口の継続的な増加に向け、住みたい、住み続けたい魅力づくりのための中心部の賑わいづくりが求められています。
- ・道路整備を進めているが、中心拠点付近や通学路に未整備路線が残っており、中心部の拠点との連携強化のための道路環境強化が求められています。
- ・宮若リコリスが整備され、また、新庁舎整備が進められている中で、これらを中心拠点として一体的な利用を促進するための空間形成。また、自主防災組織の活動及び災害時の拠点として多機能性を持たせることが求められます。

まちづくりの目標

以下に示す目標に向けたまちづくりを行いました。

大目標『都市機能がコンパクトに集約された中心部の多機能拠点づくり』

- 目標1：中心部の憩いの空間形成のための広場の創出
- 目標2：施設間連携を図り新たな賑わい拠点の形成
- 目標3：中心拠点へのアクセスがしやすい道路環境の形成

事業内容

目標達成のために以下の事業を実施しました。

整備方針	実施事業
整備方針1 (中心部の憩いの空間形成のための広場の創出) ・中心部の空き地や、新庁舎周辺に交流広場を整備することにより、 中心部に市民が気軽に利用できる憩いの場の創出 を図ります。 ・新庁舎、リコリスや公共交通結節点の広場の相互連携により 中心部の回遊性向上 を図ります。	・新庁舎前連携交流広場整備事業 ・筑前宮田駅跡広場整備事業 ・宮田バスセンター整備事業
整備方針2 (施設間連携を図り新たな賑わい拠点の形成) ・新庁舎の周辺に広場を整備することで、中心拠点施設の相互活用を図り、 市の新たな賑わいの拠点を創出 します。 ・ 自主防災活動の拠点 として、地震時等の災害時の避難拠点として、 多機能な広場形成 を図ります。 ・新庁舎周辺の道路改良整備により、拠点性を高めるための アクセス性向上 を図り、賑わい拠点の強化を図ります。	・新庁舎前連携交流広場整備事業 ・片鉾・天王寺線道路改良事業 ・宮田停車場・本城線道路改良事業
整備方針3 (中心拠点へのアクセスがしやすい道路環境の形成) ・生活道路の路面舗装や道路拡幅、歩道設置、側溝整備により、車両及び歩行者の 安全な交通環境の形成 を図ります。 ・中心拠点へのアクセス道路を改良することにより、 中心部の日常的な利用促進 を図ります。 ・通学路等の街路への防犯灯の設置による 安全な歩行空間を創出 します。	・宮田停車場・本城線道路改良事業 ・片鉾・天王寺線道路改良事業 ・磯光・小竹線道路改良事業 ・防犯灯の設置

目標の達成状況

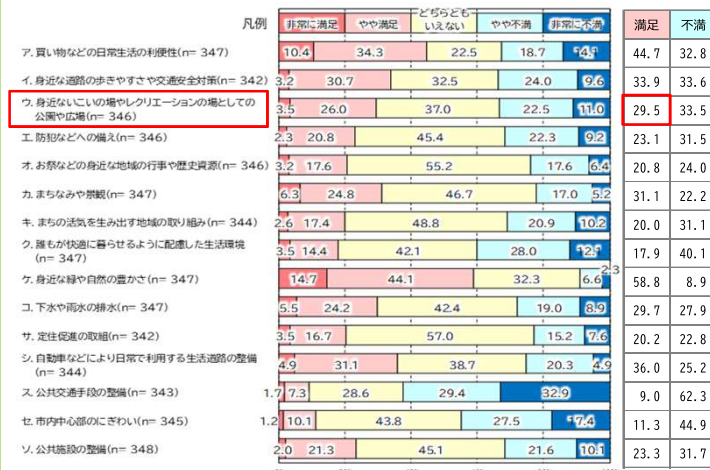
以下の指標により目標の達成状況を評価しました。

指標	単位	従前値	目標値	評価値	達成状況
指標1 身近な憩いの場やレクリエーションの場としての公園や広場についての満足度	%	22.4 (H30)	32.0 (R5)	29.5 (R5)	△
指標2 公共施設の利用者数	人/年	209,524 (H29)	215,312 (R5)	198,309 (R4)	×
指標3 身近な道路の歩きやすさや交通安全対策と自動車などにより日常で利用する生活道路の整備についての満足度	%	29.7 (H30)	35.0 (R5)	35.0 (R5)	○

※○:目標達成。 △:目標未達成だが従前値よりも高い。 ×:目標未達成かつ従前値よりも低い。

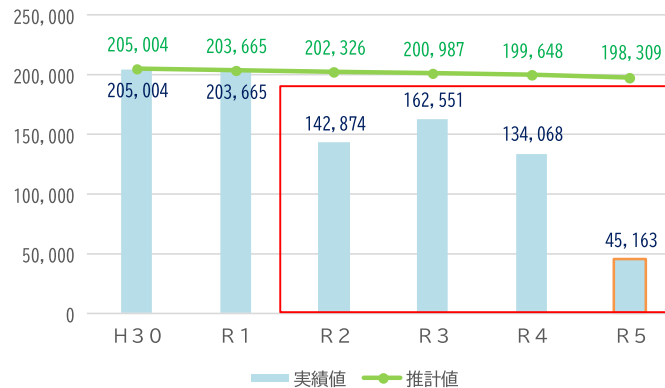
身近な憩いの場やレクリエーションの場としての公園や広場についての満足度

◆ 市民が身近に利用できる、憩いの場・レクリエーションの場を創出するため「新庁舎前連携交流広場整備事業」を進めたことで、従前の評価よりも高い満足度を得ることができたが、満足度調査時点では「筑前宮田駅跡広場整備事業」「宮田バスセンター整備事業」の完了に至っておらず（完成見込み）、目標の達成に僅かに至っていません。



公共施設の利用者数

◆ 新庁舎周辺の広場整備により、中心拠点に立地する公共施設（中央公民館、文化センター、マリーホール、リコリス・図書館）の利用促進を図るとともに、周辺道路の改良によるアクセス性の向上による利用環境の向上を進めたが、新型コロナウイルス感染症による人の移動自粛・制限等により、公共施設の利用者が減少し目標達成には至っていません。



新型コロナウイルスの蔓延による外出等の規制や自粛の期間と重なり、以前の利用者数に比べ大きく減少しています。そのため、当該期間を除いたトレンドによる評価値の算定を行っています。

身近な道路の歩きやすさや交通安全対策と自動車などにより日常で利用する生活道路の整備についての満足度

◆ 生活道路の安全性向上を図るため「通学路防犯灯設置事」や道路事業として「宮田停車場・本城線道路改良事業」「片鉾・天王寺線道路改良事業」「磯光・小竹線道路改良事業」を進めた。「宮田バスセンター整備事業」の他、道路事業においても一部未完成区間が残るものの（完成見込み）、整備の進捗・成果が見えたことで市民の評価・満足度の向上に繋がり目標達成に至りました。

選択項目	5	4	3	2	1	合計 (有効回答)
	非常に満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	非常に不満	
身近な道路の歩きやすさや交通安全対策(%)	3.2%	30.7%	32.5%	24.0%	9.6%	100.0%
自動車などにより日常で使用する生活道路の整備(%)	4.9%	31.1%	38.7%	20.3%	4.9%	100.0%

選択項目	「非常に満足」と「やや満足」の合計	平均
身近な道路の歩きやすさや交通安全対策	33.9%	35.0%
自動車などにより日常で使用する生活道路の整備	36.0%	

実施過程の評価

事業の実施にあたっては、以下のような工夫をしています。

■住民参加プロセスの実施状況

「自主防災拠点としての機能促進」

■実施結果

市ホームページ等に避難所などの防災情報を掲載するほか、市民の防災意識の向上を図るため、地域における防災拠点施設にて市民主導で防災訓練等を年5回程度実施しました。

「継続的な情報公開」

■実施時期

令和元年～令和5年現在

■実施結果

当初計画から現在に至るまで、都市再生整備計画書・社会資本総合整備計画等を市HPで公表し、事業の目的・意義の公開・共有を図っています。

事後評価原案の公表

事後評価にあたって、下記の日程でパブリックコメントを実施しました。

■パブリックコメントの実施

○公表方法

- ・市ホームページに掲載し意見募集
- ・市役所本庁舎での閲覧による意見募集

○公表期間

- ・令和5年12月5日（火）～令和5年12月18日（月）

○主な意見

- ・意見はありませんでした。

今後のまちづくり方策

評価結果を踏まえ、今後は残された課題や新たに発生した課題に対応するために、以下のような取組を進めます。

■まちの課題の変化

- 市民の憩い・レクリエーションの場として「新庁舎前連携交流広場整備」をはじめ、広場等の整備を進めているが、当初計画の予定通り完了に至っていない事業については引き続き整備を進めます。また、整備した広場等を活用したイベント等の開催・周知が必要となります。
- 「宮田停車場・本城線道路改良事業」「通学路防犯灯設置事」等の道路整備及び街灯整備を進めることで、安全性、道路環境の向上が図られています。一方で未完了区間が残っているため、引き続き整備を進め、更なる道路環境の強化が必要となります。
- 庁舎前広場が完成し、中心拠点としての機能強化が図られました。今後は、整備した広場の活用とともに、第1期計画で整備された宮若リコリス等の既存施設との一体利用の検討、推進の必要があります。
- 庁舎前広場の整備により、防災に係る活動の場の創出が進められました。防災機能の向上に向けて、活動促進を図り地域の防災力・意識の向上に務める必要があります。

■今後のまちづくり方策

- 賑わいの創出・持続に向けた取組として、施設の統廃合等を検討するとともに、空き家・空き店舗、低未利用地の有効活用を進め地区の活性化に資する取組を行います。
- 本計画で整備した区間の他、必要に応じて継続的な道路改良を進め、更なる道路環境の向上を図るとともに、経年劣化が進む道路についても改修を行い住環境の維持を行います。
- 交通結節機能の構築、道路整備による周遊機能の強化を図り、中心拠点の施設利用環境の強化、集客機能の向上を進め、更なる賑わい向上を目指します。
- アンケート調査等によって得られた地域住民の要望等を今後のまちづくりに繋げていくために、地域一体のまちづくりを進め、住民満足度の向上を目指します。